

最初に、議席10番、田山文雄君。

〔10番 田山文雄君登壇〕

○10番（田山文雄君） 皆さん、おはようございます。議席10番、田山文雄でございます。ただいま議長より発言の許可がありましたので、通告書に従って2項目、3点についての一般質問をさせていただきます。また、傍聴者の皆様には早朝から大変にご苦労さまでございます。

改選後、初めての定例議会でもあり、なおかつ一般質問のトップバッターということでもありますので、大変緊張もいたしますが、執行部の誠意あるご答弁を何とぞよろしくお願ひいたします。

まず、第1項目めの高齢者対策についてお伺いをいたします。ことし3月に取りまとめられました境町の地域福祉計画「みんなで支え合い 誰もが安心して暮らせるまち さかい」と題して発行されております。この中に、さまざまな資料も添付されておるわけですが、総人口と高齢化率の推移及び推計の表を見ますと、65歳以上の高齢化率は平成24年の統計で22.8%、平成27年の推計では27.9%になると予測をされ、人口の減少、高齢化率の上昇に対する政策が必要であるとうたっています。また、町民アンケート調査結果の中で、日常生活で日ごろ不安に思っていることとの問いに対して、一番多かったのが自分や家族の健康のこと60.8%、次いで自分や家族の老後のこと57.7%との回答がありました。また、その一方で介護認定者の数は年々増加傾向にあるのが現状であり、要介護にならないための予防対策が重要となっていると思ひます。

そこで、まず1点目に、肺炎球菌ワクチンの助成についての当町の考えをお伺ひいたします。肺炎は、日本人の死因としてがん、心疾患、脳血管疾患に次4番目に多い病気とされています。中でも、高齢者の肺炎による死亡率は高く、最も多い原因菌が肺炎球菌によるものです。高齢者用肺炎球菌ワクチンは、肺炎球菌による肺炎の約60%に対応できると言われております。重症化を防ぎ、肺炎球菌が引き起こす肺炎、気管支炎などの呼吸感染症のほか、副鼻腔炎、中耳炎、髄膜炎などの予防効果もあると言われております。また、1回の接種で効果が5年以上持続するとも言われておりますが、全額自己負担の任意接種のため、1回の費用が5,000円から9,000円ほどかかってしまいます。地方自治体の中からは、一部助成をすることによってワクチンを効果的に活用して住民の健康向上につながることも出てきています。当町においては、子宮頸がんワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンについては、ほかの自治体よりもいち早く取り組まれたと思ひますが、この高齢者肺炎球菌ワクチンの公費助成についてどのように考えられているか、伺ひます。

2点目に、公園等に高齢者向けの運動器具を設置して健康増進につながるような取り組みも必要であると思ひますが、当町の考えをお伺ひしたいと思ひます。ことしの3月22日、NHKの番組の中で「変わる公園の風景」と題して、大田区での取り組みが紹介をされておりました。子供たちの笑顔がふれる公園、その公園の片隅にちょっと変わった器具がありますとのナレーションで始まり、たくさんの高齢者がそこで行われる運動教室を通して器具の使い方を学び、健康が回復している例なども紹介をされておりました。行政としては、高齢者の運動の機会をふやして健康になることで、医療費の抑

制にもつなげたいとありました。また、少し古い記事にはなりますが、2009年の6月19日の毎日新聞の記事には、公園遊具は高齢者仕様にと題して子供向けの遊具にかわり高齢者の運動用に低い平均台や鉄棒などを設置する公園がふえている、ボランティアなどを講師に迎え運動教室も好評だ、目標は介護予防のための体力維持、5年後も今のままを合い言葉に運動を習慣づけようという動きが広がっていることの紹介もありました。町としても、こういったことも参考にしながら取り組むべきであると思いますが、当町の考えをお伺いいたします。

次に、2項目めのがん対策についてお伺いをいたします。ピロリ菌ABCリスク検査導入や、助成することによってがんの減少につながると思いますが、当町の考えをお伺いいたします。このことについては、昨年9月、第3回定例会においても質問をいたしました。ピロリ菌は、名前がピロリと何となく柔らかいイメージも湧きますが、実はこの菌は胃の中に存在し、発がん性物質を注入する恐ろしい菌であります。ピロリ菌ABCリスク検査とは、血液検査でピロリ菌抗体と胃の萎縮度をはかるペプチノゲンを測定し、その組み合わせから胃がん発症のリスクを明らかにするもので、その結果をもってリスクのある人は専門医の内視鏡による精密検査を行うことで、対象を絞った効果的な胃がん検診を行うことができます。また、ピロリ菌を発見された場合は早期に除菌し、胃がんによる危険性を大きく軽減させることができます。また、この除菌については保険適用が既に決まりましたが、がん撲滅のためにもさらなる施策が必要であると思いますが、考えをお伺いいたします。

以上で第1回目の質問を終わります。誠意ある答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（関 稔君） ただいまの質問の1項目めに対する答弁を求めます。

民生部長。

〔民生部長 塚原栄一君登壇〕

○民生部長（塚原栄一君） おはようございます。それでは、田山議員の1項目め、高齢者対策についての1点目、肺炎球菌ワクチンの助成についての当町の考えを伺いたいとのご質問にお答えいたします。

肺炎球菌ワクチンにつきましては、議員ご承知のとおり小児用と高齢者用、正式に言いますと成人用というふうに使われておりますけれども、小児用と高齢者用がありますが、小児用のワクチンにつきましては、ヒブワクチンとともに定期予防接種としまして既に無料で実施をしているところでございます。

高齢者用のワクチンにつきましては、最近テレビや新聞などで住民の方の関心が高まっているものと認識をしているところでございまして、我が国におきましては肺炎は死亡原因の第3位に位置をしておりまして、全体の肺炎のうち原因が肺炎球菌によるものは4分の1から3分の1を占めると言われております。町では、肺炎の予防対策の一環といたしまして、65歳以上の高齢者のインフルエンザ予防接種の公費助成を平成13年度から実施しておりますが、平成17年度で2,450人であった接種者が年々増加をして、平成24年度、昨年度におきましては2,840人を超え、接種率で申し上げますと47.5%

となっており、インフルエンザの感染予防及び重症化の防止に一定の成果を上げてきているものと考えております。

さて、高齢者肺炎球菌ワクチンでございますが、厚生労働省の感染症分科会予防接種部会のワクチン接種に関する小委員会の報告によりますと、ワクチン接種によって肺炎球菌による肺炎発症の抑制効果は認められておりますが、先ほど議員さんもおっしゃるように再接種の効果やその安全性についてはまだ検討されている状況でありまして、接種対象年齢や再接種の効果等について再評価の必要性が示されております。また、このワクチンは現在予防接種法による接種として認められておらず、希望者の判断で接種を受ける任意接種のワクチンでございますので、法律に基づくワクチン認定が待たれているところでもございます。

議員ご指摘の高齢者肺炎球菌ワクチンの一部助成制度の創設でございますが、高齢者の疾病予防の観点から、医療費の抑制につながる一つの方策であるということを念頭に、今後国、県を初め県内各自治体の動向を踏まえ、限られた財源の中で検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

次に、2点目でございます。公園等に高齢者向けの運動器具を設置して健康増進につながるような取り組みも必要であると思うが、当町の考えを伺いたいにつきましてお答え申し上げます。ご存じのように、日本は世界一の長寿社会であり、超高齢化社会に突入しようとしています。そして、誰もができることなら元気で人の世話にもならず、毎日を健康に過ごしたいと願っているはずではないかと思えます。そのようなことから、近年ではウォーキングやジョギング等、みずから積極的に運動に取り組んでいる高齢者の方が多く見られるのが現状ではないかと思えます。

議員ご指摘の高齢者向けの運動器具の設置でございますが、全国的に高齢化社会を反映して健康づくりの観点から、公園等に設置する自治体がふえているようでございます。この運動遊具の効用につきましては、筋肉と体の柔軟性を維持するのに有効であると言われておりまして、年齢を重ねても日常的に利用することにより健康保持、介護予防、さらには医療費抑制にもつながるということで、導入に積極的な自治体がふえていると聞いております。ご指摘のとおり、本町も今後高齢者社会を迎えようとしている中、高齢者の健康づくりへの取り組みは重要な課題であると認識をしておりますが、運動器具の設置につきましては単に設置しただけでは意味がなく、その活用を図っていくことが必要でありますので、今後財源の確保等を踏まえた上で、財務課及び各公園管理担当課と十分協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしくご理解のほどお願いいたします。

以上でございます。

○議長（関 稔君） ただいまの答弁に対しまして、質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） それでは、肺炎球菌のことでちょっとお伺いしたいと思います。

先ほど民生部長からありましたけれども、肺炎は第3位ということでもありますけれども、肺炎で死

亡する患者さんの9割以上が65歳以上の高齢者であるという、こういうデータもあります。そうして見ますと肺炎の死亡率がすごく高くて、その中で65歳以上の高齢者が多いという、こういう結果が出ているわけでありますから、やはりそこはぜひそういったデータをよく分析していただいて、検討していただければというふうには思うのですが、ただこの近隣で、実は私も改選前いろいろ住民の皆さんのところ歩きました。そこで本当に、例えば坂東市さんだったり古河市さんだったり、全然年齢も違いますし、金額も違います。だけれども、高齢者の肺炎球菌に対しては助成が出ている、要するに一部助成を出して、そして推進を促しているというところがあります。そういったことを踏まえますと、やはり境町だけがというふうに思われてもちょっとあれかなという気もするのです、非常に。先ほど言いました地域福祉計画の中で、一つこれもアンケートですけれども、この中で福祉のサービスが充実しているかどうかということで町の印象としてアンケートをとった中では、残念ながら境町の場合そこが低いのです。そう思わないというところがちょっと多いのです。そう思う、どちらかといえばそう思うというところが27.7%ですが、どちらかといえばそう思わない、そう思わないというのが36.2%という、こういう結果も出ています。そういうのを踏まえますと、なるべく近隣との差がないようにというのが一つ大きな課題になるのではないかなというふうに思いますし、さっき言いました病気になって医療費がかかるというよりは、その前にやはりそういう病気にならないような施策として、一つはそういう肺炎球菌ワクチンの助成をして、もちろん一部ですから、全額ではありませんから、その接種される方は実費ももちろんかかりますけれども、そういう形でしていくことが大事だというふうにも思うのです。

ちょっとお聞きしたいのですが、境町でもしも実施した場合に、他の近隣でもうやっていますので、どのぐらいの予算でもってできるかということがわかるかどうか、ちょっとお聞きしたいと思うのですが。

○議長（関 稔君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

民生部長。

○民生部長（塚原栄一君） それでは、お答え申し上げます。

議員ご指摘のように高齢者肺炎球菌ワクチン接種に対する公費の一部助成につきましては、44市町村のうち現在のところ24市町村が何らかの形で実施をしております。25番目といたしまして、筑西市がことしの10月から実施する予定ということになっております。その中で、近隣の坂東市及び常総市、それと古河市が実施をしております。坂東市と常総市につきましては70歳以上のお年寄りの方に対して1人当たり3,000円の助成を行っております。ちなみに、成人用の肺炎球菌ワクチンの費用なのですけれども、一般的に1回当たり6,000円から8,000円前後費用がかかるというふうに言われております。ちなみに、小児用の肺炎球菌につきましては1万1,000円となっておりますけれども、そういうことで常総市と坂東市につきましては1人当たり3,000円の助成を行っております。それと、古河市でございまして、古河市もやはり70歳以上の方を対象にいたしまして、こちらは1人当たり2,000

円の助成を行っているところでございます。そういったことを念頭に、今回シミュレーションを行いました。境町の場合で70歳以上の方を想定いたしまして、現在のところ人口が4,300人ほどいらっしゃいます。それを実施率、これはほかの市町村も同じ考え方をとっているのですけれども、前年度の高齢者インフルエンザの接種率を実施率として想定しまして、それで予算を計上しているということでございましたので、仮に境町もインフルエンザの接種率を、24年度47%でございまして、それと仮定した場合、3,000円の場合約600万円が必要となります。1人当たり2,000円の古河市と同じであれば400万円前後の一般財源が必要となります。ちなみに、65歳以上となりますと、人口が現在のところ最新のデータでいきますと約5,900人というのが基礎となりますので、先ほど申し上げました3,600万円、2,400万円が大幅にアップをするというふうなことになります。

以上でございます。

○議長（関 稔君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） 先ほどのちょっと一部しか僕も書きとめなかったのですが、70歳以上で2,000円の補助を出した場合に大体400万円の予算措置でできるという話がありました。400万円の予算措置で、やはりさっき言った肺炎にならない人をふやすということで考えると、これは医療費の抑制というところで、バランスで見ますと非常に僕は大きな効果があるのではないかというふうに思います。

先ほど25の市町村が始まったということでもありますので、この辺はぜひ町長に答弁いただきたいと思うのですが、今後、新年度予算になってしまうかもしれませんが、十二分に検討していただいて、これは実施の方向で、できれば進んでもらえればなというのは僕の希望ではあるのですが、ぜひ答弁をお願いしたいと思います。

○議長（関 稔君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

町長、野村康雄君。

○町長（野村康雄君） お答えを申し上げます。

これを見ますと、坂東市と古河市が実施しています、さらに常総市まで。五霞とか下妻とか八千代とかは、まだ実施していないと。これは一つは、いわゆる安全性の問題も考えなければいけないと思うのですけれども、それらがまだ確立されていないということになります。

ご存じのとおり子宮頸がんでは、境の場合は22年から実施しました。ことしの4月に、国が改めて予防接種法で認定したという結果があります。途端に、いわゆる副作用の問題で大きな社会問題になって、テレビ等でも報道されているようであります。そういうものも考えると、慎重に今後ならざるを得ない部分もあるのですけれども、議員おっしゃるとおり近隣でやっていて境が何でやらないのだということもございまして、境でやっていて近隣でやっていない部分も結構あることはあるのですけれども、それらを含めて前向きに、安全性をできるだけ医師会等とも相談しながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくご理解をいただきたいと存じます。

○議長（関 稔君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） これは、もう答弁は結構なのですが、やっぱり最初に子宮頸がんワクチンとか、確かに今ちょっと問題になってしまっていますが、副作用の面で。ただ、やっぱりそういった面では、さっき言ったようにヒブワクチンとか小児用ワクチンは、当町、町長の決断が早かったのも、ほかやる前から、もうそういうワクチンの接種というのは決まったと思うのです。だから、ぜひ高齢者についても、安全性ということではありますが、これは実施しているところもたくさんありますから、逆にその辺の安全性というのは確認できると思いますので、どうか前向きな本当に検討をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

続いて、2番目の公園等の運動器具についての質問なのですが、先ほど民生部長から、今設置しているところも多いよということで話があったのですが、これも実は僕も大田区のほうの担当の方に聞きました。これ思った以上に予算がかかりまして、大田区でやっているのを聞きますと、8つの器具に対して1,000万かかるという話を実はされたのです。それは、何かいろんな特殊なところも大田区に関してはあるのだと思うのですが、ほかの行政区でも確かにやっているところはたくさんあって、そういうところでも公園でそういった運動をすることによって、やはり高齢者の方が元気になったという例がたくさんあるというふうにも伺いました。ちなみに、大田区の方に聞きましたところ、今まで膝に水がたまっていて、週に一遍とか医者に行かなければだめだった人が、こういう公園で運動をするようになって全然行かなくなって、もう医者の方から来なくていいよと言われたとか、そういう例もたくさんありますよという話をされています。そういった意味では、器具についてはいろんなあれもあると思うのですが、一つは器具を設置しても、やっぱり運動教室をしっかりとやらないと、放置されてしまって何も無いというか、子供がたまに遊んでいるだけみたいなのところもあるようですので、この辺の取り組み、財源等とも関係するのですが、一応執行部のほうで今回検討されたと思うのですが、設置に対する費用とか、その辺はどの辺を聞かれたか、教えてもらっていいですか。

○議長（関 稔君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

福祉課副参事。

○福祉課副参事（中田勝昭君） では、田山議員さんの質問にお答えいたします。

費用でございますが、近隣を調べさせていただきましたところ、古河市で広域運動公園の多目的広場に設置してございます。1基30万円前後と聞いておりまして、工事費がやはり15万から20万円ぐらいかかるというような話をお伺いしております。たしか多目的広場には、5基ほど設置されているのではないかなと思っております。

以上です。

○議長（関 稔君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） そうしますと、さっき言った1基当たりの値段って大分大田区とは違うなどは思ったのですが、1基当たりの費用は設置まで大体50万ぐらいということだと思っております。これは、やっぱり運動していくちゃんとした講師がいて、運動の仕方をちゃんと教えてという、そういう中で高齢者の方が、普通に例えばジョギングをされている高齢者は結構お見受けするのですが、そういった方が本当に運動教室で器具のやり方を覚えると、それはもう自然と、ジョギングをされてそこに立ち寄って運動していくという、そういう流れが一番理想的な流れであって、そういう方向に何とか持っていきたいというのが各自自治体の、そういう設置をされているところの思いがあると思っております。仮にこういった設置をした場合に、例えば境でも運動教室があると思っておりますが、運動教室をしっかりやって、これをやっぱり普及していくということが一番大事だというふうには思うのですが、これは最終的には予算がかかりますので、町長のほうになってしまうのだと思っておりますけれども、どうでしょうか、これは前向きに検討されているというところでよろしいのでしょうか。

○議長（関 稔君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

民生部長。

○民生部長（塚原栄一君） お答え申し上げます。

議員ご指摘のように、私も先ほどの当初のお答え申し上げましたとおり、高齢者用の健康用具を設置しただけでは意味がございませんので、それをいかにして利用していくかというのが今後のソフト面としての、これは福祉としての一つの考えでございます。例えば先ほどお答え申し上げたように、古河市の広域運動公園多目的広場の中に設置してある、そういった高齢者用の健康器具の利用状況なのですが、やはり10月と11月、それと2月と3月に月2回、高齢者を中心といたしましていきいきウオーキング教室というのを開きまして、そこにはトレーナー、ヘルパーさん等呼んで実施しているということでございますので、当然設置した場合には、そういった事業を展開していく必要があるというふうには認識しております。

そこで、前向きな検討ということでございますけれども、そういったソフト面的な利用の展開につきましては、民生サイドで当然行っていく必要があるかというふうに思っておりますけれども、公園の中にそういった遊具を設置する場合には、これは公園の担当課との協議が必要になってくると思っておりますので、そういった協議については今後進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（関 稔君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） では、ぜひ検討をまずしていただきたいというふうに思います。

そのほかに、これはある方のネットの中での一文ですが、シンガポールや香港などの公園では、毎日何となく集ったような老人たちが、そういった器具を使って体を動かしている光景を見ることができたというふうに載っているのです。日本とちょっと習慣が違うのかなとこの人は載せていま

すけれども、そういう習慣づけるような、やっぱり町としての取り組みが一つは大事だなというふうに思います。設置もいろんなところを研究していただいて、さっき大田区の例で僕は言いましたけれども、テレビではつい最近大田区でやったということを紹介されていましたので、ちょっとそちらで僕も確認させてもらったのですが、毎回100人以上の方が集まってやっぱりやるそうですので、本当にぜひ取り組んでもらいたいと思います。

また、公園については本当は僕別な観点もちょっとあったのですが、このことについてはまた別な機会で一般質問させていただきたいと思いますので、この件については検討していただきたいという要望で結構でございます。

○議長（関 稔君） これで1項目についての質問を終わりにしたいと思います。

次に、2項目めに対する答弁を求めます。

民生部長、お願いします。

〔民生部長 塚原栄一君登壇〕

○民生部長（塚原栄一君） それでは、続きまして2項目めのがん対策についてのご質問、ピロリ菌ABCリスク検査導入や助成することによってがんの減少につながると思うが、当町の考えを伺いたいにつきましてお答え申し上げます。

境町では、町民の方々の健康保持、そして増進させることを目的といたしまして、現在各種がん検診を初め健康づくり事業に積極的に取り組んでいるところでございます。まず、境町における過去3年間の胃がん検診の受診率を見ますと、平成22年度で23.9%、23年度で23.8%、24年度で23.4%とほぼ同率で推移してきている状況となっております。

次に、平成24年度の胃がんの検診結果を申し上げますと、受診者の6.5%が要経過観察者であり、9.6%の受診者が要精密検査となっております。日本におきましては、特に男性において胃がんの罹患率が第1位とされており、女性につきましては乳がん、大腸がんに次いで第3位となっておりますのでございます。ピロリ菌ABC検査につきましては、ピロリ菌感染の有無を調べる検査と胃炎の有無を調べる検査を組み合わせ、胃がんになりやすいか否かのリスクを分類するものとされておりますので、がんを直接発見する検査ではございません。一人一人の胃の健康度を調べて胃がんになる危険度が極めて低い人たちを精密検査から除外し、危険度の高い人たちは胃がんがないかどうか確かめるために内視鏡検査などによって精密検査を受けていただく検査となっております。

さて、議員ご指摘のピロリ菌ABCリスク検査の導入でございますが、現在境町におきましては昨年9月の議会におきましてもご答弁申し上げたとおり、がん検診は国及び県が定める、いわゆるがん検診指針に基づいて実施しており、胃がん検診はバリウムを使用した胃部エックス線検査を中心に実施しております。ピロリ菌ABC検査につきましては、現在茨城県内におきまして3つの自治体で実施している現況となっております。昨年度国が設置したがん検診のあり方に関する検討会において、胃がん検診へのピロリ菌検査の導入についても検討されることとなっておりますことから、今後も国



の動向を見守ってまいりたいと考えております。また、公費助成に関しましては限られた財源の中、今後同じく検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○議長（関 稔君） ただいまの答弁に対しまして、質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） 答弁は、前回と大体一緒だと思うのですが、ピロリ菌はやはり去年の9月に一般質問をして、その後にたしか国のほうで、今度は除菌についての保険の適用が決まったと思います。国で、要するに保険が決まったということは、ピロリ菌は胃がんの発生のやっぱり要因であるということは、実はこれは国も認めていることだと思うのです。ただ、そこには保険が適用されるけれども、ピロリ菌がいるかどうかというのは、それは自分の実費でやりなさいという、実はちょっと非常にこれはおかしいなというふうな感じはいたすのですが、ぜひこれも本当に、町ではなかなか決められないというのはわかっています。実際医師会のほうとよく相談をして、医師会のほうが協力してくれないとなかなかこれは進まない。群馬県の高崎市では、どちらかというとなら群馬県の高崎市の医師会のほうが中心になって、先行してピロリ菌検査をしましょうということで進んだというのが実態であります。ただ、そういった中で、これことしのうちで載っていたのですが、高知県の日高村というところは村でありますけれども、ここではやっぱりそういうピロリ菌のABC、検診でこれを取り入れています。ここですと、1人当たり1,700円の自己負担となるのですが、それでもってやっぱり集団検診の中でピロリ菌がいるかどうかというのわかるというか、そういう検診を始めたところもあります。本当にまだ少ないのですけれども、これからやっぱりピロリ菌に対して何とか検査をしてという助成だったり集団検診だったりして、それを何とかやろうというところも実はだんだんふえてきているのです。だから、このことも認識をしていただいて、ぜひやっていただきたいというふうに思います。これは、民生部長に聞くのたちちょっとあれかと思うのですが、やっぱりさっき言った保険適用になっているということを考えますと、要するにピロリ菌の除菌が、ピロリ菌をなくすということが胃がん撲滅の一つの方法になるのではないかなというふうに僕は認識しているのですが、その辺民生部長のお考えとしてはどうですか。

○議長（関 稔君） ただいまの質問に対し、答弁を求めます。

民生部長。

○民生部長（塚原栄一君） お答え申し上げます。

議員ご指摘のようにピロリ菌検査、あるいは検診につきましては、現在国におきましてピロリ菌と胃潰瘍との関連性が十分認められまして、ピロリ菌の除菌が先ほどご指摘のように保険適用となりまして、胃潰瘍等の治療の一環に加えられたものでございまして、患者の皆様には当然治療の選択肢がふえたものと理解をしているところでございます。

それで、先ほど議員からお話がありました群馬県の高崎市なのですけれども、これも私調べさせて

いただきまして、平成18年度からやはり高崎の医師会、これは市ではなくて高崎の医師会がABCリスク検査を導入して22年度まで医師会のほうで実施をしております、23年度からは高崎市のほうで一部公費助成によって行われておるということを聞いております。大体の予算額につきましては400万から500万ということで、予算額につきましてはそういったことで編成をしまして、高崎市では現在も行っておるといふことでございます。それで、やはり胃がんのABCリスク検査を導入することによって、胃がん検診そのものの受診率が向上したというふうな話も聞いてございます。

それと、境町の導入でございますけれども、先ほども国の動向等々についてお話し申し上げましたけれども、先ほど議員ご指摘のように、やはりこの導入につきましては医師会の全面的な支援、協力が必要不可欠というふうなことも言われておりますので、今後そういった国の動向を踏まえながら、当然国の動向も必要性がございますので、そういったことも踏まえながら、医師会とも協議を開始させていただきたいというふうに考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（関 稔君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

田山文雄君。

○10番（田山文雄君） 本当にこれは検討するしかないというのはわかっているのですが、どうか、最初冒頭、僕も質問の項目で言いましたけれども、少子高齢化というのはみんなが知っていたことですが、その勢いがやっぱりだんだんもうすごいなという感じがするのです。さっきデータに出していましたが、24年の段階で22.8%が65歳以上、まして27年、あと2年後にはもう27.9%という推計が出ている、本当に4人に1人はみんな高齢者になっているという、もうこれ超えてしまっているわけですから。30%近くなったら、ひょっとしたら3人に1人ぐらいの感じにあつという間になっていくという、こういうふうになっていく時代でありますから、そういった中で、ましてや健康に対して一番不安を持っているという現状もありますので、どうかその辺を本当に、高齢者の方がやはり元気でいていただくことが一番いいことだと思いますので、どうか町としても高齢者対策に対して十二分に検討していただくことをお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（関 稔君） これで田山文雄君の一般質問を終わりにします。